

[勝呂館跡(大智寺)]探訪レポート







山門







龍護山とある









文殊堂



この文殊堂の裏側に空堀・土塁などが確認されるという







文殊堂の裏(西側)は堀跡のようである







土塁のようでもある







地藏尊





さまざまな供養塔



板碑の半端もある





板碑のカケラがたて掛けられている





長崎奉行を務めた黒川丹波守正直の墓





右手が丹波守の五輪塔











立派な宝篋印塔





これが本堂









鐘樓











弘法大師像



興教大師(こうぎょうだいし)覚鑿(かくばん)像











境内から山門を見る



「鬼橋」の石(もとは新町の胴山古墳の石室に使われていたものだったとも伝えられる)



【1】坂むかし話よりー
鬼橋



坂戸市大字石井の元宿と、大字梁の間に、西から北東に流れる谷治川があります。この川に欄干のないゴックリートの小さな橋がかかっています。この川の中に、青黒い大きな石が沈んでいるのが、目につきます。石には、とても面白い伝説があります。むかし、むかしのこと、一びきの赤鬼が、秩父の山の方から大きな石を背負ってやってきました。きれいな水が流れている谷治川にきたとき、急げのどが乾き水を飲み、ひと休みしようとして、石を背負ったまま川をどびこえようとしたが、ところが背中の石を川の中に落としてしまいました。なんどかして石を引上げようとしたが石に根付てしまいました。ピクともしません。川底に手を入れて押しても駄目です。あきらめた鬼は、大きな波をこぼしながら石を置いたまま、山へ帰って行きました。それ以来、この石は川の中にもあり鬼が持ってきた橋といふことで「鬼橋」という名がつけられました。そして、たれいとうとなく、この石のまわりを振ると必ず雨が降るとか、日照りて水不足の時は村人総じて雨乞い行事をしたそうです。

【2】元宿・雨乞い話よりー
鬼橋・雨乞い石のりやく

昭和八年七月二十一日、鬼橋での雨乞い行事の日のことです。元宿、全世帯と石井全区の世話人さんの勧誘を得て、文殊様で護摩を焚き、鬼橋に集合しました。早速橋の四隅に、はんで棒を立ておしずや、作むしらで目除けを作りました。前日地区代表二名が、大山阿夫利神社（神奈川原）へ行ってきたお水を、石橋のまわりにまきました。お祈りには、大智寺大塚牧師住職、白山神社の中宮司、地元世話役の采配のもと行事も無事終了。みんなほつとして全員で神酒をくみ交わし、昼食をとろうとした時、にわか大雨が降り出し、数分間のうちに、衣取を絞るほどの物凄い雨になったそうです。この時刻、塚越も赤尾方面は全く雨が降らなかつたと言います。雨乞い当日元宿の人たちは、一世帯二十銭とさう金額を出し合ひ、文殊様の行籠執務行事も合わせて行いました。その後、昭和三十年八月三日の雨乞い行事の清んだ翌日の事でした。雷雨ともなつた、恵みの大雨に「鬼橋の、石のりやく」。

とこおとりして喜んだそうです。このように村に恵みの雨を呼んでくれた鬼橋の石と、作物を作る人たちの、なみなみならぬ努力や、村中助け合ひの精神的な苦勞法等を後世に伝えたいこと、更に、健康に知恵のある手に、大智寺文殊様建立で台と共、鬼橋の石も、みなさんのお力で大智寺門前に建立されたのです。



大智寺文殊様建立で台建立委員会
平成十九年七月吉日

参考ホームページ

<http://www42.tok2.com/home/hakubutukan/musashi/suguroshi.html>

<http://michisora.web.infoseek.co.jp/sakado-KD-folder/sakado-KD4.html>



